

2021年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する
 - (A) ミッションスクールとしての意義をより強く認識する
 - (B) ミッションスクールとしての特性を具現化する
 - (C) 保護者の理解度を向上させる
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - (A) 各学年にふさわしい安全教育を実施する
 - (B) 危機管理研修を実施する
 - (C) 避難訓練を実施する
- 3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く
 - (A) アシステンツァを励行する
 - (B) 聖書默示録21章5節を読み深める
 - (C) 学校の魅力を発信する
 - (D) 説明会・オープンスクール等を実施する
 - (E) 校種間の連携を強化する
 - (F) サレジオ一貫教育を強化し、大阪星光学院との連携を深める
 - (G) クラス数増加による施設設備を拡充する
 - (H) 既存施設設備の利用を考える

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

A. 自己評価アンケート結果と分析	B. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <p>○緊急時の適切な情報伝達 ○建学の精神・教育理念への共感 ○教職員の気持ち良い挨拶 ○個人情報の適切な取扱い ○子供をこの学校に通わせて満足 ○学校が楽しい ○教育理念の分かりやすい説明 ○学校行事が楽しい ○施設設備の行き届いた清掃 ○保護者の相談への適切な対応 (すべて満足度88%以上)</p>	<p>1. 学校関係者評価委員会からの意見</p> <p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2021年度学校評価に関する検討は2022年3月10日(木)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <p>○全般的に満足度は幼稚園との比較では下回っている。特に6学年では満足度の割合が低くなってしまっている。勉強も難しくなり、受験もあるため保護者が学校に求めるレベルが高くなっているという要素が考えられるのではないか。</p> <p>○小1・小2は「[5]とても満足」の割合が全体的に高く、学校に対する満足度が高い。小3では[5]の割合が低い項目がみられるが、小1の終わり頃からコロナ禍となったため、不満・不安を感じている保護者が多いのではないか。全体的には[5][4]の割合が高く充実した教育活動をされていると感じる。</p> <p>○新型コロナウィルス感染者の増加時、いち早く短縮授業とし、オンライン授業の実施や学級閉鎖後の補講授業など臨機応変に対応がなされた点は評価できる。</p> <p>○児童に寄り添った教育がなされている点はよいが、他校種との交流機会を増やすことが期待される。</p>

ア.自己評価アンケート結果と分析(続き)	イ.学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<p><評価が相対的に低かった項目></p> <p>○地域との連携 ○進路指導の時期の適切性 ○子ども自身の進路の考察 ○幼稚園及び中高との活動の連携</p>	<p>○礼儀や作法、人を思いやる心を学ぶ場になっている。ただ、教員に少し活気がないように感じられる点が残念である。</p> <p>○教職員の対応がとても良い。安心して子どもを学園へ通わせることができている。</p> <p>○コロナ禍で行事予定が大きく変わる状況下で、年間スケジュールが各時点でのようになっているのか、分かりやすく提示する必要があったのではないか。</p> <p>○家庭学習や進路指導についての評価については、中学校進学が念頭に置かれるため少し厳しめの数値ともとれるが、進学校である以上致し方ないとも言える。中期方針、行動計画を保護者への浸透を図り続ける他ないと考える。</p> <p>○コロナ禍により、行事の縮小や変更は残念ではあるが、代替の方策が工夫され配慮がなされている。また陽性者が出ても詮索されないよう、保護者への連絡を最小限にとどめてくれているようにも思われる。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

※満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する	神父様、APの指導の下、宗教研修を活性化し、一泊研修等を通して、カトリックに対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。	ミッションスクールとしての存在意義の認識	学校は、建学の精神に沿った教育を行っている。(3) →満足度86.7%	(○)机上の理解だけではなく、クリスマスページェントや創立者ドン・ボスコの祝日ミサ等の具体的な活動を通して宗教教育に関して研鑽を深めた。また、ともに考え、行動することで、教員同士の信頼関係の深化に務める姿が見られた。
	(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する	ドン・ボスコを初めとする聖人の生き方に倣う。聖書をもとに宗教行事の充実と光の子集会での児童の活動を大切に扱う。宗教科道德との関連を図る。	児童のカトリック精神に対する意識と実際の行動の変化	学校は、教育目標(及び指導方針=シラバス)に沿った教育を行っている。(7) →満足度81.7%	(○)中学年「サレジアンシステム」をテレビ放送で発表済。共創立者であるマリアマザレロに関する発表により、全校的に本校教育方針の理解を深めることができた。
	(C)保護者の理解度を向上させる	保護者対象勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロの教育についての理解を深める。	カトリック精神及び創立者ドン・ボスコ・共創立者マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と行動の変化	学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている。(1) →満足度90.6%	(△)現時点では満足できる成果をあげているとは言えない状況である。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	(A)各学年にふさわしい安全教育を実施する	学年別各種教室を実施する。 特に下校指導に重点を置き、教師による立番指導、巡回指導を強化する防犯訓練を実施する。	児童及び教員の意識高揚、具体的な行動の確認		(△)実際に電車バスに乗り込み、最寄りの駅までの乗降マナーについて指導を行った結果、ある程度の成果が表れてきている。継続実施の必要がある。全校的な防犯訓練は実施する時間がとれなかつた。
	(B)危機管理研修を実施する	心肺蘇生法研修を実施する。 炊き出し訓練を実施する。 新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー(毎週金曜日)の意識化	学校の施設設備は、安全管理が行き届いている。(30) →満足度85.6%	(○)週に1度金曜日の安全点検デーにおいて、使用頻度や施設の老朽化等による危険個所の点検、報告、補修を随時行い、児童の安全安心の確保に努めた。また、今年度はコロナ感染症対策において備品のみならず、児童・保護者への呼びかけを徹底してきた。
	(C)避難訓練を実施する	全校避難訓練を年3回実施する二次災害を考えた(津波等)避難訓練を実施する。また、予告なしの避難訓練、防災訓練の実施を考える。	緊急時における防火・防災に関する意識高揚		(△)防災頭巾の使い方や学年学級における訓練のための諸注意はできたが、実際に避難行動を実行するには至らなかつた。
3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く	(A)アシステンツアを励行する	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る。児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	教育効果の向上	教員は、子どもに日々寄り添うよう努めている。(15) →満足度87.1%	(○)学年主任を中心とした学習指導や生活指導を強化している。教員と児童との適度な距離感を保ち、児童の鏡となれるよう努める。
	(B)聖書黙示録21章5節を読み深める	「希望につき動かされて見よ、わたしは万物を新しくする」の具現化に努める。	サレジオ家族の一員としての意識化	学校は、建学の精神に沿った教育を行っている。(3) →満足度86.7%	(○)来年度ストレンナにあるように優しさと自由を通して児童の心に達することができるよう、日々研鑽に努め、学校力を高めていく姿勢を持ち続けていきたい。
	(C)学校の魅力を発信する	保育所・幼稚園・幼児塾への管理職、入試担当者と若い教員での訪問を行い、心と学びの根っこを育てる教育の発信を行う。	目標新入生数の確保	学校は、教育目標(及び指導方針=シラバス)に沿った教育を行っている。(7) →満足度81.7%	(△)宗教教育を始め、宗教的な雰囲気を前面に押し出し、児童との密な関係の中での学習指導、生活指導、行事活動等を発信していきたい。児童の生き生きとした学校生活も伝えたい。若い先生方の発信力に期待する。

中期的目標	中期行動計画	2021年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(カッコ数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
3 創立70周年(2022年度)における学園の将来像を描く	(D)説明会・オープンスクール等を実施する	学校説明会2回、オープンスクール2回、zoom配信による説明会、個別説明会を実施する。また、各幼稚園、塾への案内及び近隣塾への小規模説明会を実施する。また、入試速報会を行う。	宗教教育をベースにした心技体バランスのとれた児童を育成する学校であることと教育改革の進捗状況の周知	学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている。(1) →満足度90.6%	(△)数日に分けての少人数による学校説明会やオープンスクールの実施あるいは個別相談会の随時実施等の導入が必要。教員と児童の密な繋がりをセールスポイントとしていきたい。
	(E)校種間の連携を強化する	授業参観や研究授業等を通して、幼・小・中高の教員の連携を強化し、交流を図る。	幼小中高教員の連携強化	教員間での連携が十分に図られている。(19) →満足度81.3%	(△)小学校での研究授業には中高の先生方にご参加いただけた。また、幼稚園の保育にも小学校から参観をさせていただいた。教員の資質向上を図るために、子どもの現状、実態を知ることが次へのステップとなる。
	(F)サレジオ一貫教育を強化し、大阪星光学院との連携を深める	合同研修会、ほしづみ、チャレンジゼミを継続維持し実施する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	小学校は、幼稚園及び中高と連携した活動を行っている。(39) →満足度52.1%	(△)教員間の連携を基本に、全校生徒の交流場面連携を基本に交流できる場を設けたい。総合学園としての実質的な活動場面、体育的行事、学芸会的行事、音楽的行事、総合的活動行事等での連携が望まれる。
	(G)クラス数増加による施設設備を拡充する	学級教室及び特別教室と必要設備品等の確保を行う。また、随時教員数の増加が望まれる。	少人数制学級編成によるきめ細やかな教育の実現	学校の施設設備は、学習環境の面で十分な機能を備えている。(32) →満足度79.9%	(○)構想通りに進行している。ICTルームの教室化。更衣室の教育相談室化。備品施設についても着々と進行中である。
	(H)既存施設設備の利用を考える	現在使用している施設設備の有効利用を考え、教育活動に生かす。温故知新。特に、人数が増えた場合の運動場について考える。	今までの考え方を超えた新しい方法の捻出		(△)運動場の割り振り(授業・遊び時間)については検討中である。テニスコートを含めて考えていきたい。